

IATSSフォーラムの求めるリーダーシップ

IATSSフォーラムでは、専門分野、文化的背景の異なるメンバーとの多様性環境の中で、チームメンバーの強みを最大限に引き出し共通目標に向けて導いていく「**共創型**」の**リーダーシップ**を、約7週間の研修プログラムを通じて醸成していきます。

研修プログラムの特徴

- ・講義のみでなく、事前調査、討議、グループ研究等の**多様な学びの形態**を通じて、主体的・創造的に学ぶ方法を体験させる。
- ・研修過程（講義、実地研修、発表・討議）の中で、**分野や立場の違いによる対立軸を示す**ことで、自らの専門分野の知識に偏ることなく、多面的且つ柔軟な発想で考えられる人材を育成する。
- ・**対象国の現状、ニーズに即したトピック**を扱い、日本、及びアジア、世界の事例に触れることで、自国の課題への対応策のヒントを得る。
- ・実地訪問研修を重視し、**五感で体験**することで、気づきや学びをより深く自分のものにする。
- ・**様々な分野で活躍する実践者の理念・ヴィジョン**、及びそれらに基づく過去～現在までの行動に触れ、自身のリーダーシップ醸成への気づきを得る機会を提供する。
- ・専門分野、出身国、職業形態における**多様性を確保**し、多様性の環境下での、自己対峙や多様な他者との濃い関わりにより、自己成長への気づきを生む。
- ・自身のリーダースタイル把握と課題設定、多様性の環境下で**実践、リフレクション**（自己・他者）を繰り返すことでリーダーシップを涵養する
- ・討議での発言、発表、レポート作成を通して、意見やアイデアを多様な他者に**伝える能力**を身に着ける

成長が期待される能力

リーダーシップと組織マネジメントに関する基礎力	リーダーシップとマネジメントに関する基本的な理解、状況に応じて効果的に発揮する為の基礎的な力
学際的思考に基づく洞察	諸問題を関連づける広い視野、分野をまたぎ多面的に問題を掘り下げ追及するための洞察力
アイデア考案力	責任をもって人類社会の持続的・平和的発展に寄与しようとする強い意志と具現化に向けたアイデアを考案する力
コミュニケーション力	人材力、チームの潜在力を最大限に引き出し、対話を通じた合意形成を基に共通目標の達成に向けて導いていく「共創型リーダー」に必要な思考・態度・対入力
影響力・アイデアの具現化力	専門分野や所属組織、立場の違いを越え、多様な他者との協働・共創関係の中で、明快な理念やヴィジョンを示し、より良い変化の実現に向け行動する力



公益財団法人 国際交通安全学会
IATSS フォーラム
〒510-0236
三重県鈴鹿市中江島町17-8
TEL: 059-367-7077
FAX: 059-367-7076
Mail: iatssforumofficial@gmail.com



LEADERSHIP DEVELOPMENT PROGRAM





アジアの次世代を担う リーダーの育成

IATSSフォーラムは、1985年に設立された研修機関で、アジアの将来を担う人材の育成を目指しています。アジア10カ国から若く優秀な人材を日本に招聘し、「**Thinking and Learning Together (共に考え共に学ぶ)**」をモットーに、セミナー、フィールドスタディ、グループ研究などを通して、参加研修生が互いの国について理解し、自国・アジアの現在の課題に取り組む場です。

プログラムで取り上げるトピックは対象国の現状、ニーズに合わせて変化していきますが、学会や実業界からトップクラスの講師を招き、特定分野を深く研究することよりも、リベラル・アーツを学びながら**リーダーシップを研鑽**することを目指します。

IATSSフォーラムの成り立ち

1983年、国際シンポジウムにて当時のマレーシア首相、マハティール氏の、「今後のアセアンの発展の源泉は人材である」との意見に本田宗一郎が共感。帰国後藤沢武夫と共に人材育成機関としてIATSSフォーラムを寄付金にて設立(1985年)し、現在に至ります。長年の継続の結果、2015年にアジア諸国との相互理解の促進への貢献として外務大臣表彰を頂きました。



プログラムの骨子

異なる国籍、異なる専門性を持つ研修生が集う、という多様な環境の下、「**持続可能な発展**」のテーマに基づき

- ①環境、政治、経済、教育、文化といった、知見を広げる講義
- ②日本における持続可能な発展の事例を、視察(経験)を通じて学ぶ
- ③上記を基に、各グループにて研究テーマを選定し、課題解決に向けた対策の議論・発表

といった研修プログラムを提供しています。この他にも、約7週間を共にする仲間とのチームワーク醸成のための合宿、地元ボランティア様との文化交流なども行っています。

学びを自国へ

研修生たちは自国の課題に対し、研修で学んだことを基にその課題解決に向けて、グループで研究を行い、その結果を発表します。発表して終わり、というわけではなく、**自国へ戻ってから自身の所属する組織や同窓会組織において、自国の課題解決に向けて活動を続けています。**

全体の流れ

来日・研修

来日後は「持続可能な発展」のテーマの下、様々な観点からの知見を得るとともに、研修の中での実践を図り、個々人の成長を促します。

チームワーク醸成

自己・他者理解を深めると共に、研修を通して各々の自己開発が促進されるチームとしての基盤作りを行います。

セミナー

「講義」「事前課題発表(アジア諸国の現状と課題)」「グループ討議」で構成される。「講義」で示された一つのテーマにおけるいくつかの対立軸を念頭に、各国の課題についてあらゆる視点から提え討議し、自らの専門分野の知識に偏ることなく多面的且つ柔軟な発想で考える力を磨きます。

事例研究(視察)

事例研究を通して、持続的発展の妨げとなる自然・人的災害に対する日本の対応を知り、環境と調和し、且つレジリエンスのある社会の構築について学びます。また、事例研究の後半では、安全・安心を柱とした日本式発展の事例研究を通じて、各ステークホルダーの過去～未来を見据えた取り組みや直面する課題のみでなく、成長・発展の機会として捉えた行動に触れ、自国の持続的発展へのアイデアを得ます。



グループ研究

講義、事例研究で得られた学びを基にグループ研究を行います。グループ研究は、研修の締めとして位置付けられ、これまで学んだすべての要素を応用し、リーダーシップ、及びグループ毎に設定したテーマについて討議を重ね、成果物(発表資料及び、レポート)に纏めます。グループにおいて、リーダー/フォロワーとして、チームパフォーマンスの向上に貢献し、チームを発展させていきます。このプロセスの中で自己・他者の実践、実践に対する(自己・他者による)リフレクション、課題設定を繰り返しスパイラルアップを図ることで、各々がリーダーとして必要な思考、態度、対人力を体得します。



事前学習

研修テーマに基づき、自国の状況を他研修生や講師に発表・議論するための事前学習を行い、理解を深めます。



募集・選抜

アジア地域の10カ国*から書類審査、面接を経て各国2名を選抜します。
*カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム

帰国・実践

所属組織、地域、同窓会組織を通して、研修で得たアイデアを具現化し実社会で実践します。また、IATSSフォーラム研修及び同窓会組織主催のセミナー等を通して、自身の知識・経験を後進に伝えることを通して、影響力・実行力を更に高めていきます。

